

四川大地震と図書館

狩野修二

四川大地震(中国では汶川地震)は、二〇〇八年五月一二日一四時二八分に発生した地震である。震源地は中国中西部にある四川省アバ・チベット族チャン族自治州の汶川県であったが、マグニチュード八という非常に大規模な地震は、四川省近隣の甘肅省や陝西省のみならず中国のほぼすべての地域で体に揺れを感じるほどであったという。地震による被害の約九〇%は四川省で発生したとされており、死者約六万九〇〇〇人、負傷者約三十七万四〇〇〇人、行方不明者約一万八〇〇〇人と非常に多くの犠牲者を生んだ。また、直接的な経済被害は約八四五〇億元(当時のレートで約一二兆円)と伝えられている。

被災地域のほぼすべての図書館がなんらかの影響を受けているが、その被災状況、災害時の対応

や復興の状況等について、発表されている報告などをもとに紹介したい。

●図書館の被害状況

中国図書館学会によれば、四川省には一一九の公共図書館があり、そのうち、四館が全壊、二九館が深刻な被害を、二五館が被害を受け、約一八二万冊の資料と一万三〇〇〇台の機器が使用できなくなったという。またそれらを合わせた図書館全体の被害総額は四億三六〇〇〇万元に上るとのことである(当時のレートで約六五億円)。使用不能となった資料には現地や現地の民族に関する資料が数多く含まれているということである。

また四川省以外でも甘肅省では四館で建物に深刻な被害、六館に建物への亀裂が発生し、陝西省で

も壁面の亀裂はあちこちの図書館でみられたとの報告がある。

●地震発生後の図書館の対応

災害発生後に被災地や被災地外の図書館がどのように行動したか、大学図書館、医学図書館の二つの事例を紹介したい。

①綿陽師範学院図書館

綿陽師範学院のある綿陽市は、省都である成都に次ぐ四川省第二の都市である。震源地である汶川県からは一〇〇キロ程度離れているが、比較的大きな被害を受けたエリアである。

地震発生時は、図書館員の避難指示がスムーズであったため、転倒などによる怪我等もなかった。また、幸い建物は倒壊しなかったが、専門家により、立ち入りは危険であると判断された。

こうした状況のなかで、図書館

職員は、地震後おもに二つの点について対応を行ったと報告している。

ひとつは、図書館内に残された学生の遺留物の回収と返還である。図書館内には避難時に置かれたままになったノートパソコンやカバン、携帯電話、教科書等が大量に残されていた。図書館員は立ち入りが危険とされた館内からこれらの物品を持ち出して、目録を作成し、学生証の提示と連絡先の記入を求めたうえで返還に応じた。

二つ目は、様々な方法による図書館サービスの速やかな復旧である。地震発生時は、卒業論文の提出と卒業発表の時期であったため図書館が立ち入りできなくても、文献の提供をやめるわけにはいかない状況だったようだ。そのため、テントでのレファレンス対応や、利用可能な校舎を臨時の図書室とし、論文に必要な資料を図書館から持ち出し貸出を行った。さらにデータベース等のベンダーに連絡をとり、リモートアクセスで電子情報を利用できるようにするなど、図書館サービスの復旧にあたったとのことである。

②人民解放軍医学図書館

災害が発生した後の数日は、食料や飲料水、基本的な衛生施設の

提供が課題となるが、同時に伝染病の防止と制御も緊急を要する重要事項である。

人民解放軍医学図書館は、地震発生の数時間後には、チームを結成し、医療・衛生情報の提供のための行動を開始した。

被災後の初期段階では、医療救助と伝染病の抑制が重要な課題である。このうち、医療救助は専門家によりすぐに行われる。一方で医療・衛生情報は初期の段階では見過ごされがちである。しかしここで、水質・衛生管理が適切に行われないと、伝染病が蔓延する可能性が高まる。これを防ぐために、医学図書館チームは衛生問題と起こりうる疾病の対処法をパンフレットにまとめ、現地で医療活動にあたる専門家だけでなく、被災者やボランティア、その他救助活動を行う人々へ配布することにした。パンフレットは、専門家のチェックを受け、地震発生の日後には被災地へ届けられることとなった。道路交通や通信等のインフラが破壊された状況で、このパンフレットを被災地に届け、配布するには困難がともなう。そこで次々と被災地へ援助に向かう救援部隊の力を借りた。また、生物医学の

バックグラウンドを持つ図書館職員も現地へ向かい、医療・衛生情報に関するレファレンス活動を行った。

また、被災地へは大量のボランティアが救援活動のため向かっていった。彼らに事前に医療・衛生情報の予備知識を持ってもらうため、インターネット上に情報提供のサイトを作成した。このサイトには、医療救助・処置の情報のほか、起こりうる疾病や伝染病拡散抑制、メンタルヘルス、被災地の最新情報等を掲載した。

●復興に向けた活動

震災からの復興にあたって、中央政府は、「汶川地震災後恢復重建条例（汶川地震の復旧・復興条例）や、「汶川地震災後恢復重建总体规划（汶川地震の復旧・復興マスタープラン）」等複数の法令や計画を制定・公布し、災害からの復旧にあたった。これらのなかで、図書館を含めた学校や病院等の公共施設は当地の建築物の耐震基準よりも高い基準で建設すべきことが定められた。

復興計画のうち基本的なものは、三年以内の完了が目標とされ、その結果二〇一一年四月末時点

で、四一三〇あった復興計画のうち約九五%が完了したという。

図書館界においても中国国家図書館主導のもと、圖書の寄贈や電子図書館の建設、図書館員の研修開催などを実施した。また四川省図書館をはじめとする多くの図書館が再建設され、図書館に関するプロジェクトは二〇一一年九月末時点ですべて完了したとのことである。

●終わりに

以上、四川大震災における図書館の被害状況、対応、復興について紹介したが、彼らの報告のなかでは最後に、建築物の耐震問題、日ごろの防災意識と訓練などが重要であることが述べられている。また人民解放軍の医学図書館では、二〇〇二年時のSARS（重症急性呼吸器症候群）発生時に十分な対応ができなかったことの反省から、今回の迅速な行動が可能になったと報告している。こうした普段の防災意識の積み重ねによって、今後起こりうる災害の被害を最小限に抑えることが可能となっていくことが期待される。

（かのう しゅうじ）／アジア経済研究所 図書館資料企画課

《参考文献》

- ①National Library of China 2011. "The Great Sichuan Earthquake and library reconstruction" CDNLAO Newsletter No.72 Nov.2011. (<http://www.ndl.go.jp/en/cdnlaol/newsletter/index.html>).
- ②Cheng, Jin et al. 2009. "China's Sichuan Earthquake: role of a medical library in the immediate recovery process-insights and observations" World library and information congress: 75th IFLA general conference and council, 23-27 August 2009, Milan, Italy.
- ③Chan, Julia, and Ferguson, Anthony W. 2009. Sichuan 512 catastrophe: rebuilding libraries after the earthquake.
- ④杜新中「二〇〇九」『高校图书馆对地震灾害的应对及思考』《大学图书馆学报》第二期。《国家图书馆 中国图书馆年鉴二〇〇九》中国图书馆年会编「二〇〇九」『中国图书馆年鉴二〇〇九』北京图书馆出版社。